

保護者 各位

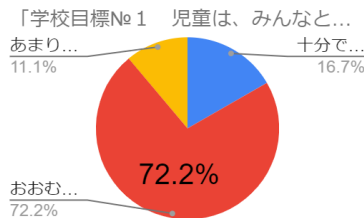
令和4年度 学校評価(前期)の結果【お知らせ】

八戸市立八戸小学校
校長 小林 淳

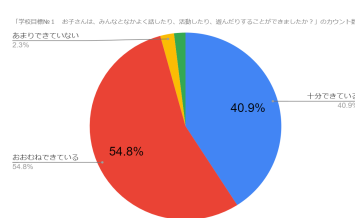
保護者の皆様からご協力いただいた学校評価(前期)の結果を報告いたします。保護者の皆様の評価及びご意見を生かし、後期の学校教育活動をさらに充実していく所存です。なお、紙面の都合上、一部を省略しております。詳細をご覧になりたい方は、八戸小学校HP「令和4年度学校評価(前期)」をご覧ください。

No1 学校目標について

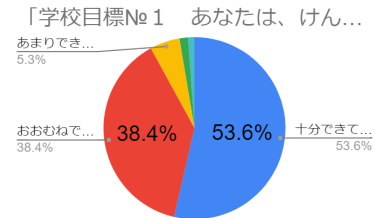
児童(お子さん)は、けんかやいじわるをせず、みんなとなかよくお話ししたり、遊んだりすることができていましたか？



教員評価



保護者評価

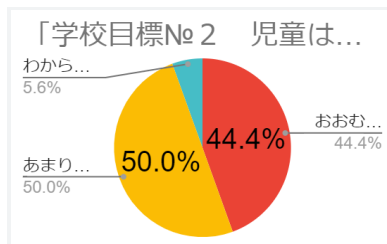


児童評価

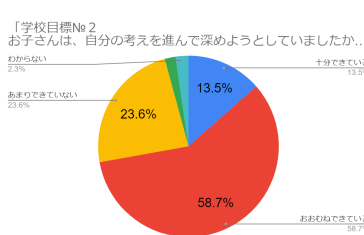
保護者からは「十分できている」「おおむねできている」と高い評価をいただきました。「いじめ」や「いじわる」はいつでも、どこでも、起こりえることと考えて指導を継続しながら、**みんながお互いに認め合える雰囲気**を大切することで、学校目標の実現に向かって指導してまいります。

No2 学校目標について

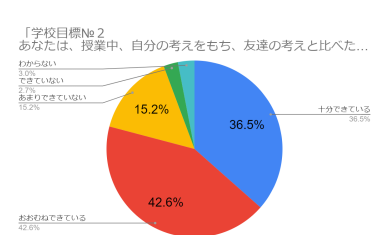
児童(お子さん)は、授業中、自分の考えをもち、友達の考えと比べたり本などで調べたりしながら、考えを深めることができていましたか？



教員評価



保護者評価

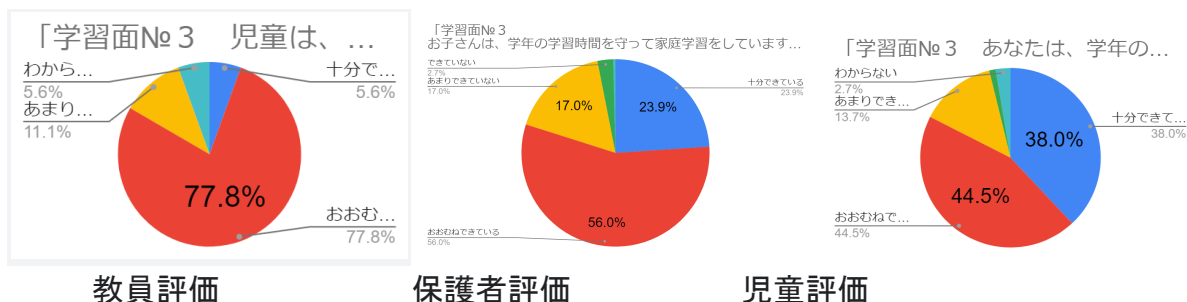


児童評価

「十分できている」「おおむねできている」は、教員44.4%と評価が低く、保護者も72.2%と評価はあまり高くはありませんでした。「あまりできていない」「できていない」と評価した保護者は25.5%でした。**1学期から取り組んでいる授業改善(「主体的、対話的で深い学び」、「ズレ」を意識した導入設定や話し合いを通して自分の考えを再構築していく等)を継続するとともに、保護者にも取り組んでいる内容を発信することで、ご家庭のご理解を高めていきます。**

No3 学習面について

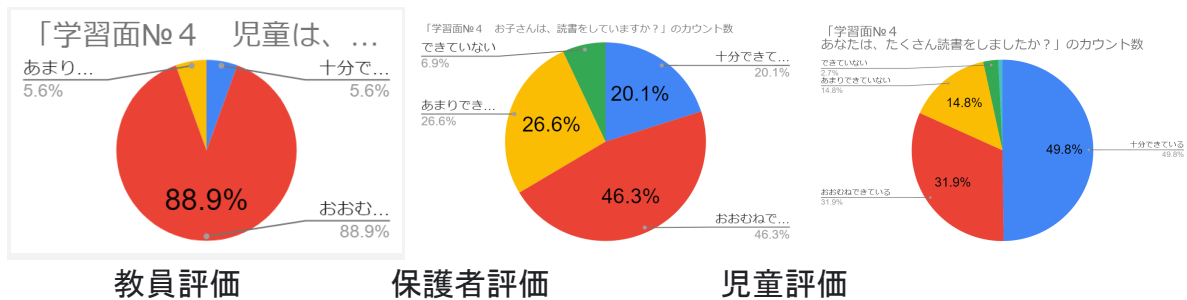
児童(お子さん)は、学年の学習時間を守って家庭学習をしていましたか？



「十分できている」「おおむねできている」の評価は、教員、保護者、児童を比べても大きな差はありませんでした。ただし「あまりできていない」「できていない」と評価した保護者もいました。児童の家庭学習の定着は、確かな学力を定着させるためには必要不可欠なものです。保護者の協力を得ながら、継続して指導してまいります。

No4 学習面について

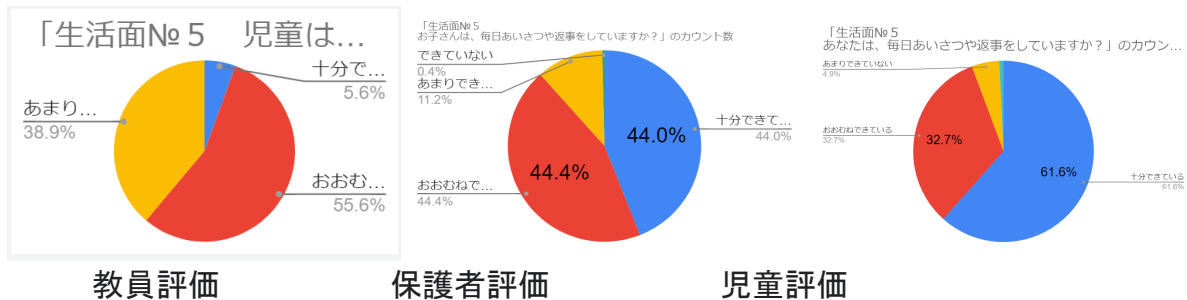
お子さんは、たくさん読書をしていましたか？



「十分できている」「おおむねできている」では、保護者と教員、児童の評価に大きな差がみられました。家庭で読書をする習慣(読書をする様子)が定着していると評価した保護者は6割ほどで、ゲームや動画サイト、SNSなどの環境が、読書離れの要因の一つであると考えられます。また、1人1台端末を使った家庭学習もあることから、「たくさん読書」は難しいのかもしれませんが。ただし、豊かな情操を涵養することや活字へ親しむこと、想像力を育むことなど、読書をするものの価値も高いことから、家庭読書の推奨を継続し、読書を家庭学習の課題にするなどしながら、無理なく読書に親しませていきたいと思います。

No5 生活面について

児童(お子さん)は、毎日あいさつや返事をしてしていますか？

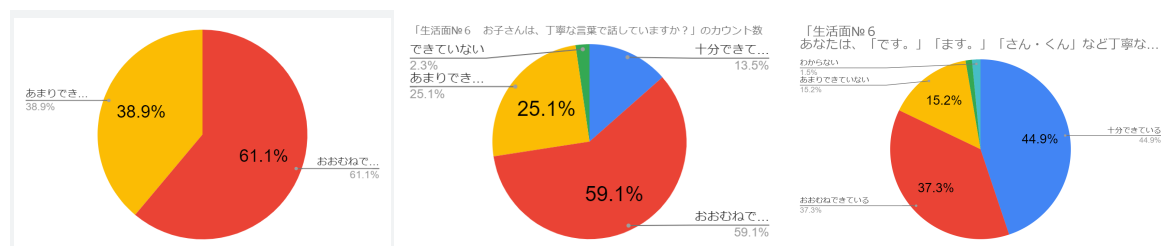


「十分できている」「おおむねできている」では、教員61.2%、保護者84.4%、児童94.3%と評価の差が大きいです。「あまりできていない」では、教員38.9%、保護者11.6%、児童4.9%と評価の差が大きいです。児童は、家庭では「あいさつ」や「返事」はしており、学校でも

あいさつや返事をしていると思っていますが、教員の目指す「あいさつ」と「返事」にはまだまだ十分ではないと考えているということから評価の差が生まれていると考えます。コロナ禍、学校教育活動で指導が行き届かないと思われるものの一つが「あいさつ」「返事」です。教員からの働きかけだけではなく、委員会活動で取り上げたりあいさつ運動時にスローガンやテーマ、あいさつのポイント(重点)を決めて取り組むなど意識付けをしながら継続して指導していきます。

№6 生活面について

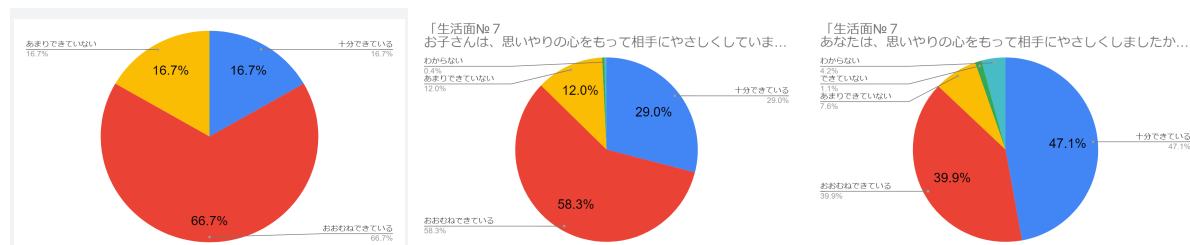
児童(お子さん)は、「です。」「ます。」「さん・くん」など丁寧な言葉で話していましたか？



「十分できている」「おおむねできている」では、教員と保護者の評価に大きな差はなく、家庭でも丁寧な言葉で話していると評価した保護者は7割ほどです。「あまりできていない」「できていない」では、丁寧な言葉で話すことができていないと感じている保護者が全体の3割ほどいます。本校での「ふわふわ言葉週間」や道徳科を要とし各教科、特別活動等で日頃から丁寧な言葉遣いに向けた取り組みを続けてきた成果が表れてきました。

№7 生活面について

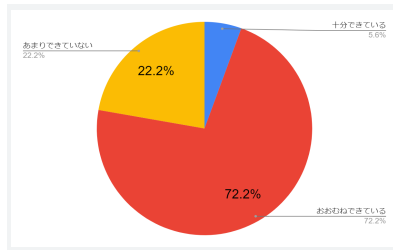
児童(お子さん)は、思いやりの心をもって相手にやさしくしていましたか？



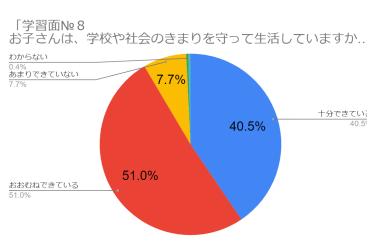
「十分できている」「おおむねできている」は、教員、保護者、児童に大きな差はありませんでした。「あまりできていない」「できていない」も、評価に大きな差はありませんでした。道徳科及び特別活動や学校行事等の機会に下級生や仲間を思いやる場面を設定したり、「振り返り」で思いやる行動について記述させたりするなど、「思いやり」を全児童に対して意識させて取り組ませていきます。

№8 学習面について

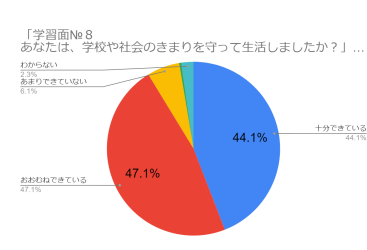
児童(お子さん)は、学校や社会のきまりを守って生活していましたか？



教員評価



保護者評価

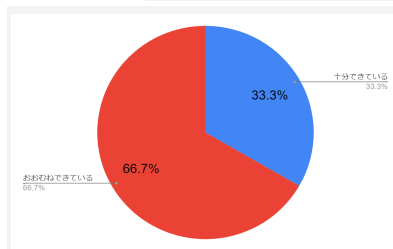


児童評価

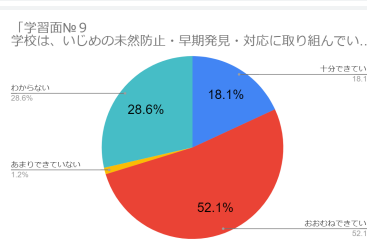
「十分できている」「おおむねできている」では、教員77.8%、保護者91.5%、児童91.2%と教員との評価に大きい差が見られました。1学期は、帰宅後・休日の遊び方や下校の仕方についての指導が度々あったので、後期も、学校のきまりや社会のきまりを児童に理解させ、児童と共通理解したうえで保護者と連携して取り組んでまいります。

No9 学習面について

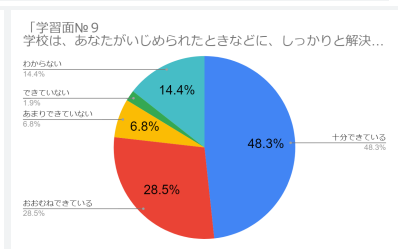
学校は、学校は、いじめの未然防止・早期発見・対応に取り組んでいると思いますか？



教員評価



保護者評価

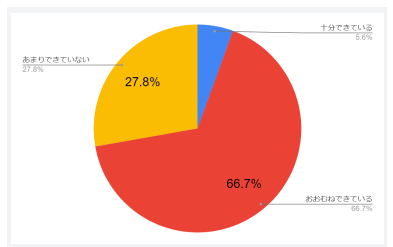


児童評価

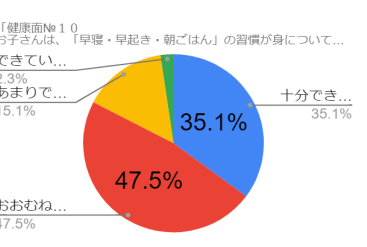
「十分できている」「おおむねできている」では、保護者70.2%、児童76.8%でした。学校は、いじめの未然防止・早期発見・対応に取り組んでおり、保護者や児童からは7割程度高い評価を得ることができました。しかし「あまりできていない」と回答した保護者1.2%にとっては、納得がいく対応ではなかったということかもしれません。指導後3か月間、観察をしっかりと継続した指導をするなどし、その都度保護者にも経過を知らせていきます。「いじめがおさまった。」といじめられていた当事者(児童)が納得する指導をすることで、保護者の理解を得たいと考えています。

No10 健康面について

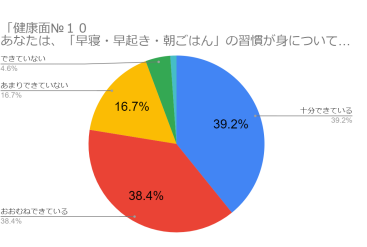
お子さんは、「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣が身についていますか？



教員評価



保護者評価



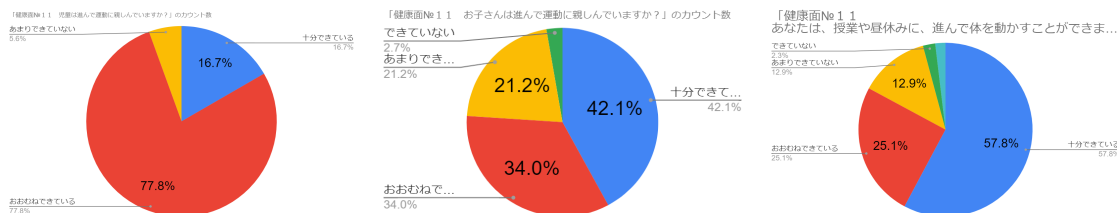
児童評価

「十分できている」「おおむねできている」は、教員に比べ保護者の割合が高く、「あまりできていない」「できていない」も、教員に比べ保護者の割合が低いことから、保護者の多くは、「望ましい生活習慣」が身についていると考えています。

ただし、「あまりできていない」「できていない」と感じている保護者が17.4%いることから、「生活習慣調べ」や日頃から望ましい生活習慣への働きかけは継続するとともに、生活習慣の改善が必要な児童には、家庭からの協力を得ながら指導を継続していきます。

№11 健康面について

児童(お子さん)は、進んで運動に親しんでいますか？



教員評価

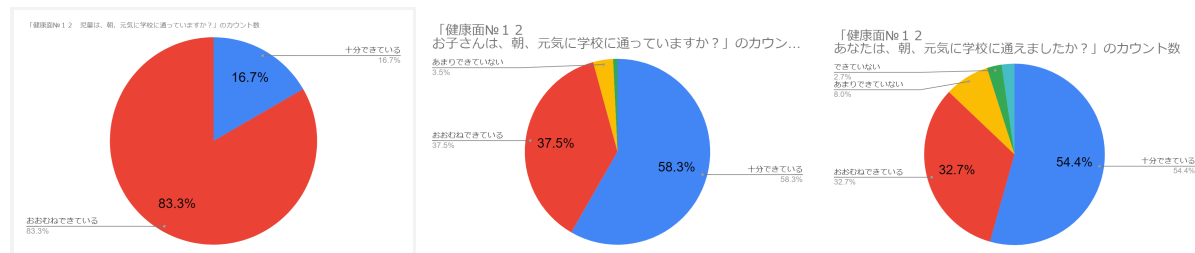
保護者評価

児童評価

「十分できている」「おおむねできている」では、教員94.5%、保護者76.1%、児童82.9%でした。学校では運動に親しんでいる児童も、コロナ禍もあり、家庭ではなかなか進んで運動に親しむ姿が見られていないようです。「あまりできていない」「できていない」と回答した保護者23.9%と児童15.2%に関しては、教科体育等で運動する喜びを味わわせ、進んで体を動かす機会を提供することで運動好きにさせることを大切に指導し、その結果として、家庭でも運動に親しむ姿が見られるようになって考えています。

№12 健康面について

児童(お子さん)は、朝、元気に学校に通っていましたか？



教員評価

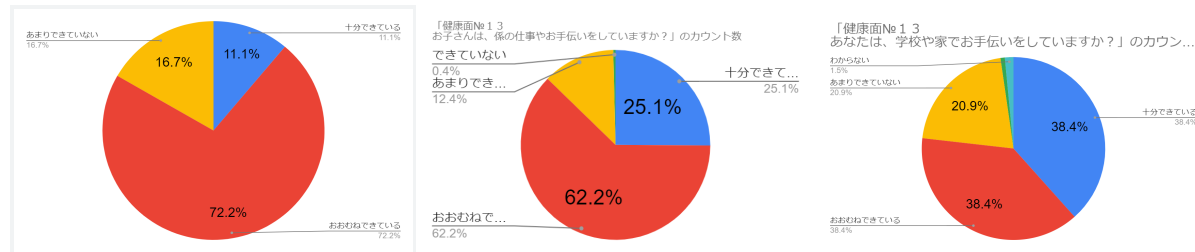
保護者評価

児童評価

「十分できている」「おおむねできている」では、教員、保護者、児童とも高い評価を得ました。しかし、児童評価で「あまりできていない」「できていない」と回答した10.7%(28人)に対しては、個別に指導をしていきます。

№13 健康面について

児童(お子さん)は、学校や家でお手伝いをしていますか？



教員評価

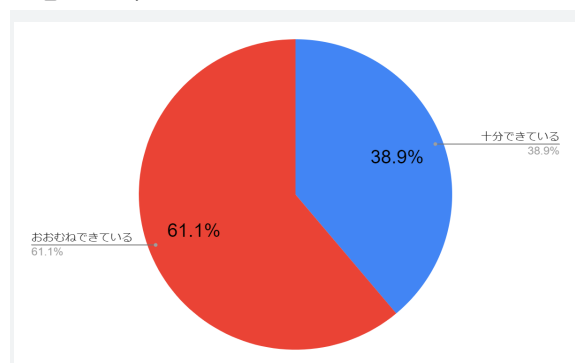
保護者評価

児童評価

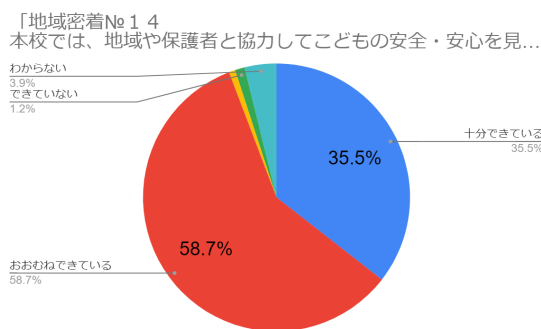
保護者、教員、児童のそれぞれの評価項目でのポイントに大きな差はみられませんでした。しかし「あまりできていない」と回答している保護者と児童が相当数いることから、学級の係活動や当番活動、委員会等でお手伝いをする機会を増やし、実践させることで認め、達成感や成就感を味わわせ、自己有用感を高めさせていきたいと思えます。その成果として、家庭でもお手伝いする意欲が高まればよいと考えています。

№14 地域密着について

本校では、地域や保護者と協力して子どもの安全・安心を見守るような活動を進めていると思いますか？



教員評価



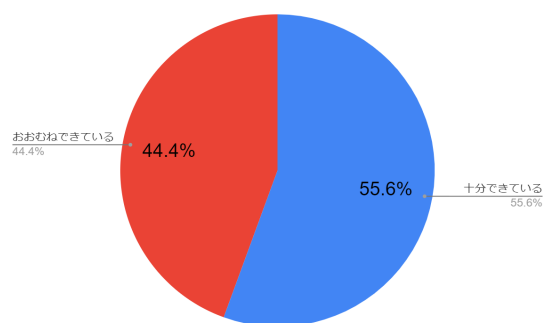
保護者評価

「十分できている」「おおむねできている」は、教員、保護者とも高い評価でした。「あまりできていない」「できていない」は、保護者4.7%(12人)でした。

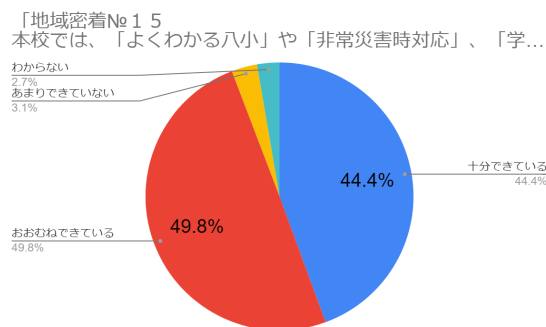
1学期は、コーディネーターの夏坂さんの協力で「内丸山車組見学」や「吟行」など充実した体験学習を行うことができました。また、保護者や交通安全協会の協力を得て、安全な登下校の仕方を指導していただきました。2学期も皆さんの協力を得ながら、体験的活動や探究的活動、安全な学校教育の推進に努めていきたいと思ひます。

№15 地域密着について

本校では、「よくわかる八小」や「非常災害時対応」、「学校運営ガイドライン(新型コロナウイルス感染症対策)」や学校だより、ホームページ、ブログ、メール配信を通して学校の様子を伝えることに努めていると思ひますか？



教員評価



保護者評価

「十分できている」「おおむねできている」は、保護者94.2%と高い評価でした。「あまりできていない」「できていない」は、保護者3.1%でした。保護者の皆様から、「非常災害時の対応」や「新型コロナウイルス感染症対策」等に対して高い評価を得ることができました。これからは文科省、県教委、市教委の対策方針を踏まえながら、適切に対応していきます。

★その他 記述①

我が子もそうですが、仲の良い子とはうまくやるが、それ以外の友達との関係が薄いような気がします。授業参観の様子や普段息子から聞く学校の様子などからも自分の意見や考え方、趣味趣向が違う子とは線引をしている子が多い印象です。

必ずしも全員と仲良くしなければならぬわけではありませんが、多様性についてもっと学べる時間があればいいなと思います。

また、ここ数年は学年懇談のみで学級懇談がないので、学級懇談があればもっとクラスの様子が見えるのになと思います。

○回答

本校の校訓に「協同」があります。協同とは、「力や心を合わせて取り組む」ことであり、努力目標には「みんなとともに活動する子」を掲げ教育活動に取り組んでいます。本校でも、これからの未来を担う子どもたちには、多様な人々と様々な考えを認め合いながら協同で取り組んでいく力が必要だと考えています。

まずは、学級で道徳科や各教科、特別活動や学校行事を通して、お互いを認め合い尊重し、相手を思いやる心を育ててまいります。また、異学年の交流を通して、相手の考えや思いを理解し、踏まえたうえで自分の考えを構成したり伝えたりするコミュニケーション力育成も継続してまいります。多様性を含めて違いを尊重する人格形成に本校でも家庭でも共に取り組んでいきたいと思っております。最後に参観日の学級懇談ですが、希望に応えることができるよう前向きに検討してまいります。

記述②

勉強時間(ながら勉強しない)、自ら考えて思考を深めるなど、中学校になったら困るスキルだと思いますが、なかなか家ではテコ入れできず、です。

中学生になってから小学校とのギャップに耐えられるか心配なので、学校でも少し、中学校の厳しさを伝えていただけると助かります。(自分ごととしてなかなか捉えて貰えないのがネックなので、学校で伝えても・・・ということもあるかと思いますが。)

○回答

本校では、中一ギャップ(中学校に入学してから大幅に変わる教育活動の変化)解消のため、第二中学校と連携して様々な取り組みをしてきましたが、コロナ禍のため活動を制限せざるを得ない状態が続いています。記述にあるとおり、中学校への円滑な接続(ストレスなくスムーズに学習環境に適応)のために、6年学級担任から「中学校での心構え」等を指導していきます。なお、家庭での学習習慣の育成には、やはり保護者の皆さんのお力に頼るところが大きいので、学校と保護者で連携し、お子様の学習習慣の定着を目指し取り組んでいきましょう。

記述③

(評価した項目ではないですが)通学路点検で一緒に下校した際に、女の子同士の力関係が2年生ですでにできつつあるようで(発言力のある子(自分がかわいいことを知っている子たち?)、その子たちに萎縮する子)、学校から少し「みんな平等」等のメッセージをいただければと思います。

○回答

本校の校訓は、「自発・協同」です。また、努力目標は「みんなとともに活動する子」であり、子ども同士お互いを尊重し、認め合い、高めあうことで、より豊かな成長を期して教育活動を行っております。この教育方針は全ての教員の目指すところとなり、各学級の教育活動の目指すところとなります。

私たち教員は、子どもたち一人一人の長所を伸ばすことで自己肯定感を高めていきます。また、お互いを認め合いながら共感的な人間関係を築き、助け合う活動を通して自己有用感を育てていきます。そして、八戸小学校の児童が思いやりにあふれる子どもたちになるよう指導してまいります。

記述④

学校の授業の他にもマラソンやなわとびなど体を動かす機会が多くあると感じています。ただ、運動が苦手なこともあり、学校以外では運動することがほとんどありません。

○回答

本校では、努力目標に「進んで運動する子」を掲げ、運動好きを増やし主体的に運動に取り組む子どもを育ててまいります。まず、運動の楽しさを味わわせ、できる運動からスモールステップで取り組ませていきます。「わかった」「できた」の回数を増やすことで「できるかもしれない」「やってみよう」と運動に対して前向きとなり、家庭での運動や体を動かすことに繋がると考えています。これからも「運動が好きな子」を増やしていこうと考えています。

記述⑤

本人が相談しやすい環境や、のびのびできる環境を今後ともよろしく願いいたします。

○回答

本校では、教育相談週間やいじめアンケート、日頃の子どもたちの様子の観察など、いつでも相談しやすい雰囲気づくりに取り組んでいます。これからも、いじめのない子どもたちが安心して通える学校づくりを行ってまいります。

また、のびのびできる環境は、子どもの自由で柔軟な発想の源となり学習や運動の充実につながり、ストレス等の解消、登校渋りや不登校の防止にもつながることから、八戸小学校らしい子どもがのびのびと生き生きと生活できる環境を大切に育ててまいります。

記述⑥

先ず中央児童館との連携がちゃんと出来ていない時がある。学校では児童館が空いているつもりで送り出して実際児童館が閉館していたことがあったようです。

(おそらくコロナの対応のときだったと思います)

また、脅迫メール騒動の際も祖母に迎えに行ってもらったが中々帰してもらえず、更に娘が祖母が迎えに行くという旨を「あゆみ」に記載がなかったとして先生に注意されたそうです。(そのときは学校からの連絡としては時間のある保護者の方は帰宅時の見守りをなるべくお願いしますという程度の書き方しかなかったのて特に「あゆみ」に記載とかなかったと思います。)

○回答

中央児童館との連携についてご指摘をいただきありがとうございます。

コロナ対応の話題に関しては、昨年度の対応のことかと思えます。その際も、保健所への連絡と合わせて中央児童館とも調整を努めてまいりましたが、本校で把握できていない閉館があったということですので、今後はさらに連携を深めてまいります。

一方、脅迫メールの際には、ご迷惑をおかけしました。ご家庭への連絡が明確でなかったものと通知文を再度確認いたしました。ご指摘を今後に活かしてまいります。

記述⑦

学校目標№2についてですが、自ら調べようとする意識が希薄であると思えます。

○回答

本校では、授業の初めの5分間(導入場面)を大切にしています。「おや?」と疑問をもったり調べたいと思ったり、児童が主体的な学習者になるように育てていきたいと思っています。知的好奇心を高め、新しい知識を獲得する楽しさを味わわせることにより、さらに学びを深めたいと考え、進んで学ぶ児童を家庭と共に連携しながら育てていきたいと思っています。